

第3回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会
チーム参加募集要項

学生プール

チーム1次要項

2011年12月13日

第3回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会
実行委員会

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当協会事業に対しまして格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、下記の通り「第3回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会」を開催いたします。

つきましては開催にあたり参加選手の募集をさせていただきますので皆様のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

記

- 日 程 2012年2月11日(土)～12日(日)
- 場 所 古橋廣之進記念浜松市総合水泳場(静岡県浜松市)
- 主 催 特定非営利活動法人日本ライフセービング協会
- 後援(予定) 静岡県、静岡県教育委員会、浜松市、財団法人日本水泳連盟
- 協賛(予定) 株式会社三洋物産/株式会社三洋販売
- 協力(予定) 浜松ホテル旅館協同組合、有限会社吉田三郎商店、日本ライフセービング協会中部支部

■競技種目 【個人種目】

- ※01 200m障害物スイム(男)
- ※02 200m障害物スイム(女)
- ※03 50mマネキンキャリー(男)
- ※04 50mマネキンキャリー(女)
- ※05 100mレスキューメドレー(男)
- ※06 100mレスキューメドレー(女)
- ※07 100mマネキンキャリー・ウィズフィン(男)
- ※08 100mマネキンキャリー・ウィズフィン(女)
- ※09 100mマネキントウ・ウィズフィン(男)
- ※10 100mマネキントウ・ウィズフィン(女)
- ※11 200mスーパーライフセーバー(男)
- ※12 200mスーパーライフセーバー(女)

【チーム種目】

- 13 4×50m障害物リレー(男)
- 14 4×50m障害物リレー(女)
- 15 4×25mマネキンリレー(男)
- 16 4×25mマネキンリレー(女)
- 17 4×50mメドレーリレー(男)
- 18 4×50mメドレーリレー(女)
- 19 ラインスロー(男)
- 20 ラインスロー(女)

【特別種目】

- 21 メドレーリレー【Intercollegiate Relay version】(男)
- 22 メドレーリレー【Intercollegiate Relay version】(女)

- ◆※印の種目は、エントリーする条件としてエントリー標準タイムを設定します。詳細は別紙「エントリー標準タイム導入について」を参照してください。
- ◆下線のある種目は、タイム決勝で行います。
- ◆チーム種目および特別種目は、各チームから1チームのみのエントリーとします。
- ◆4×50mメドレーリレーについては今大会では得点、メダルの授与の対象にはなりません。但し、記録については公式記録として認めます。

■タイムテーブル

別紙を参照してください。タイムテーブルは、選手エントリー数により変更する場合があります。

■得点方法

タイム決勝及び決勝の結果に対して得点が加算されます。個人、チーム種目とも同じ得点とし、配点は下記の通りとします。

1位-8点、2位-7点、3位-6点、4位-5点、5位-4点、6位-3点、7位-2点、8位-1点

- ① チームの総合得点が同点の場合は、1位の種目の多いチームを、1位の種目が同数の場合は、2位の種目の多いチームをというように総合順位を決定します。
- ② 総合順位は、本大会で実施する22種目中18種目（実施種目の80%）以上の最終競技結果をもって成立するものとします。
- ③ 決勝で失格の場合は0点とします。
- ④ ブロッキングシステムを採用します。

《ブロッキングシステムとは》

個人種目の上位8位内に、同一クラブの選手が複数名入賞していた場合は、最も上位の順位のみが総合得点に反映される。

■表彰

各競技上位1～8位を入賞とし、1～3位はメダルを授与、表彰式で表彰します。また、チーム総合得点により上位1～8位を入賞とし、1～3位のチームを表彰式で表彰、4～8位は賞状を授与します。

■参加費

選手1名につき5,000円をエントリー締切日までに指定の口座にお振込みください。但し、個人種目のエントリーは、選手1名につき2種目までとし、チーム種目はこの限りではありません。振込先については「大会エントリーの手引き」でご確認ください。

■代表者会議

競技進行や競技上の注意事項について説明する代表者会議を2月10日(金)に開催します。詳細につきましては後日チーム代表者宛にご連絡いたします。大会直前の重要な情報を伝達し、各種目の最終出場確認をするため、代表者会議には必ず出席してください。

■施設利用

2011年9月の台風15号の被害発生によりダイビングプール（アッププール）の利用不可や観客席の利用制限等、施設利用に制限が発生しています。2次要項や代表者会議等でご案内いたしますので、あらかじめご了承ください。よって安全管理上、各チームの観客席の区分等をあらかじめ主催者側で決めさせていただきますのでご了承ください。

■C級審判員養成講習会

2012年1月22日(日)、関東と関西でC級審判員養成講習会を開催いたします。詳細は協会ホームページをご参照ください。

- 申込方法 「参加競技者募集要項」「大会参加規定」を熟読し、学校（チーム）単位でお申し込みください。提出物はデータファイル送信と書類の郵送がございます。詳細は「大会エントリーの手引き」でご確認の上、記入漏れ・記入ミスのないように十分ご注意ください。

※申込締切： 2012年1月13日（金）

データ提出；2012年1月13日（金）24：00 受信分まで

郵送提出；2012年1月13日（金）消印分まで

※締切りを過ぎたものや書類の不備、上記の提出書類が揃っていない場合は、受け付けませんので、ご了承ください。

※参加規定を満たしていない場合、参加費の未納等は参加を受け付けない場合がありますのでご注意ください。

※参加申し込み締切り日までに、会員登録および会費納入の手続きをされていない団体・個人会員の方は、本大会に出場できませんので、予めご了承下さい。

提出期限	提出書類等の概要
締切日： 2012年1月13日（金） ① データは24:00 受信分まで ② 郵送物は当日消印分まで	☆（データ送信）「選手申込用紙A～F」のデータ ☆（郵送）「申込用紙A～F」を出力したもの ☆学生委員会用「チームビデオレター」※別紙参照 ☆参加費の振込 ☆（該当チームのみ）チームキャップ新規登録・変更

■ その他

- ① 各種目で入賞された選手で、競技成績証明証が必要な方はJLAホームページ「委員会→競技運営審判委員会→競技成績証明書」を出力し、JLA事務局までご提出ください。
- ② この大会では、2日目に「中学生/高校生ライフセービング・プール競技記録会」を予定しています。詳細はおってHPにアップいたしますのでご確認ください。

■ 提出物と締切のまとめ

メール提出；2012年1月13日（金）24：00 受信分まで

- ① 選手申込用紙（A・B・C・D・E・F）のエントリーエクセルデータ

郵送提出；2012年1月13日（金）消印有効

- ① 選手申込用紙（A・B・C・D・E・F）出力紙
 ※同意書は参加選手全員分と捺印をお願いいたします。
 ② チームビデオレター

参加費のお振込み；2012年1月13日（金）

審判員・スタッフ申込；2012年1月13日（金）※申し込みは審判員・スタッフが個別申込

その他、必要に応じて提出するもの
 ・チームキャップ申請書（新規・変更）

■ お申込み・お問合わせ先

日本ライフセービング協会事務局（業務時間：平日9：00-18：00）
 〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-18 トップスビル1階
 TEL：03-3459-1445 FAX：03-3459-1446

第3回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会

大会参加規定

1 参加資格

競技者の参加資格は下記を満たしている者、若しくは本協会が特別に参加を認めた者でなければならない。

- 1-1 競技者は、大会初日当日満18歳以上でなければならない。
- 1-2 競技者は、ライフセービング活動を志し、出場する競技会の過去1年以内に海岸やプール等水辺での監視・救助活動、協会が認める教育活動に25時間以上従事した学生でなければならない。
- 1-3 競技者は、本協会の団体正会員・団体一般会員に所属かつ個人正会員、若しくは個人一般会員として登録している学生であること。
- 1-4 チーム参加の場合、参加チームの大学または専門学校に在籍し、その所属する大学および専門学校が協会に登録されていること。
- 1-5 1-4に該当しない学生は、個人種目のみ参加を認める（ただし、チームキャップの登録は必要なので事前に確認すること）。
- 1-6 エントリー標準タイムが設定されている種目では、当該種目のエントリー標準タイムを突破できる者（チーム代表の責任において申告すること）。

2 チーム構成

- 2-1 チームは、出場資格を満たした、それぞれの大学又は専門学校のチームに在籍している学生のみで構成されていること。
- 2-2 1つの学校からの出場チーム数は1チームとする。但し、同じ学校でも校舎が離れている等の事由により別に活動しているクラブがある場合は、その活動状況を審査し、1学校で2チーム以上の出場を認める場合もある。
- 2-3 2-2においては調査を必要とするため、2ヶ月前までに必ず申請をすませる事とする。なお、期限を過ぎたときは今回の大会には起用しない。
- 2-4 本大会のチーム構成は、男子チーム・女子チームとする。男女混合チームとしての参加は認められない。

3 チーム名

参加チーム名は大学又は専門学校名とする。但し、同じ学校でも校舎が離れている等の事由により別に活動しているクラブがある場合で、1学校で2チーム以上の参加をする場合は、大学名+校舎名までとする。

4 出場登録

- 4-1 参加選手は個人種目、チーム種目にかかわらずあらかじめ所定の用紙を用い出場種目の登録をしなければならない。なお、登録後の出場種目の変更及び未登録の種目への出場はできない。
- 4-2 登録種目数は、1人2種目を限度とする（ただし、チーム種目は除く）。

5 チーム代表者

各参加チームはチームを代表する者としてチーム代表者を1名おかななければならない。なお、チーム代表者と選手はこれを兼任することができる。また、チーム代表者は必ず代表者会議に参加しなければならない。なお、止むを得ずチーム代表者が出席できない場合は、チーム代表者の責任において参加選手で代表者に準ずる者が出席すること。

6 チームユニフォーム及び競技中の衣類

- 6-1 各チームは、式典や表彰式および競技に適したユニフォーム、水着、キャップを持たなければならない。ラッシュガードは、主催団体から特別な指示がない限り競技中、任意に着用することができる。
- 6-2 ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般常識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる競技者も競技に参加することができない。※別途、水着に関する規定を必ず確認すること。
- 6-3 キャップは、競技会の前に本協会に登録されていなければならない。
- 6-4 キャップは、チーム全員が同様の色とパターンのキャップでなければならない。オーシャン用とプール用で色やパターンが異なる場合、併用できない。スタートの後に、キャップが取れたり、失ったりした場合でも違反なしに競技が終了できていれば失格とはならない。
- 6-5 チームのユニフォーム、水着、キャップ、ラッシュガードに競技会のスポンサーと対立するような商標、商標名があると主催団体が判断した場合、その対応は主催団体の指示に従わなければならない。

※キャップ登録は、すでに登録を済ませ変更がない場合は必要ない。登録をしていないクラブはチームキャップ登録申請書を届出しなければならない。

※水着に出場チーム以外の学校名・クラブ名が記載のものは混乱を招くため着用できない。

7 表彰

7-1 日本ライフセービング協会理事長杯は、ライフセービングチーム最優秀の証として総合優勝チームに贈られる。表彰は、閉会式にて行う。

7-2 種目別表彰

各競技上位 1～3 位にはメダルを授与する。

8 参加費

8-1 参加費は、出場する種目数にかかわらず 1 名につき 5,000 円とする。

8-2 参加費は、参加申し込みの締め切り日までに支払わなければならない。

8-3 参加申込締切後の出場登録の取り消し、天候その他の理由により、大会のタイムスケジュール変更や、やむを得ず中止になった場合でも参加費は返還されない。

8-4 参加選手が欠場、あるいは失格となった場合でも参加費は返還されない。

9 競技器材

9-1 競技で使用する器材はライフセービング競技規則「第 7 章競技器材の規格」の基準を満たさなければならない。

9-2 プール競技で使用するレスキューチューブ、マネキンは、主催団体が用意するものとする。

9-3 主催団体は、競技者の競技器材の検査・再検査を競技前、競技中、競技終了後任意に行うことができる。競技器材が基準を満たしていない場合、その競技者はその器材を使用できないか、または失格となる。

10 競技規則

10-1 競技規則は「ライフセービング競技規則（2010 年版）」に基づいて行う。

10-2 本競技会のスタート方法は、1 回制（1 スタートルール）とする。

10-3 200m 障害物スイム（男女）、50m マネキンキャリア（男女）、100m レスキューメドレー（男女）、100m マネキンキャリア・ウィズフィン（男女）、100m マネキントウ・ウィズフィン（男女）、200m スーパーライフセーバー（男女）、4X50m 障害物リレー（男女）、ラインスロー（男女）、4X50m メドレーリレー（男女）については、競技進行上、時間的な制限により、タイム決勝（予選を行わず、決勝のみ）で行う。

10-4 泳力等の不足や傷病等により競技の続行が危険と判断した場合は、対象選手の競技を中断することがある。

11 認定審判員の選出

11-1 参加チームは登録選手 20 名に対し 1 名の割合で認定審判員を選出しなければならない（例：選手 5～20 名＝1 名、同 21～40 名＝2 名、同 41～60 名＝3～5 名）。ただし、何かの理由で審判員が参加できなくなった場合は、必ず代替りの者を選出すること。

11-2 参加する審判員の方は、別紙審判員・スタッフ参加募集要項の「審判員・スタッフ参加申込書」に必要事項を記入し申し込むこと。

11-3 2 名以上選出するチームは「審判員・スタッフ参加申込書」をコピーして提出すること。

11-4 選出する審判員は、C 級認定審判員資格以上を取得し、選手として登録していないこと。

11-5 選出する審判員は 2 日間を通じて参加できること。

11-6 審判員参加に関わる交通費、朝食、昼食は別紙「審判員・スタッフ募集要項」に基づき主催者が負担する。

12 その他

- 12-1 大会中に大会主催者および大会主催者が認めた者が撮影した写真、映像を、ライフセービングの広報の目的で使用することがある。
- 12-2 大会中に大会主催者が撮影を制限したり、拒否したりすることがある。
- 12-3 大会主催者への提出書類の記載事項に虚偽が認められた場合、大会への参加や記録が取り消されることがある。

13 特別種目における競技ルール

メドレーリレー (Intercollegiate Relay version)

- (1) 競技人数 3名
- (2) 使用器材 レスキューチューブ、フィン
- (3) コース —競技規則 2010年版 95頁(4)を参照—
- (4) 競技の方法
 - ①スタートは、プール競技規則 69頁3(2)①(飛込スタート)に準じる。
 - ②第1競技者(後の第4競技者)は、フィンをつけて50m泳ぎ壁にタッチする。
 - ③第2競技者はフィンなしでスタート台からスタートし、50m泳ぎ壁にタッチする。
 - ④第3競技者(溺者役)はフィンなしでレスキューチューブをつけてスタート台からスタートし、レスキューチューブを引いて50m泳ぎ壁にタッチする。
 - ⑤第4競技者(第1競技者が担当)は、フィンをつけ、少なくとも一方の手で壁を触れた状態で水中で待機し、第3競技者(溺者役)が壁にタッチした後、レスキューチューブの肩掛けの部分を受け取る。
 - ⑥第4競技者(第1競技者が担当)は、レスキューチューブをつけ第3競技者(溺者役)を引っぱって泳ぎ、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチする。
 - ⑦第3から第4(第1)競技者への受け継ぎの際、第3競技者(溺者役)は5mラインを越える前にレスキューチューブに触れていなければならない。その後、第3競技者は、溺者役となりレスキューチューブを両手で掴んで50m引っぱられる。
 - ⑧第3競技者(溺者役)は、引っぱられている間、足でキックすることは許されるが、それ以外は救助者に協力してはならない。
 - ⑨第3競技者(溺者役)は、レスキューチューブの本体を掴まなければならない(紐やクリップの部分の掴みではない)。
 - ⑩スタート後にフィンを落としてしまった場合は、競技者はフィンを回収するか、またはフィンなしで競技を続けることができる。

(5) 失格

総則(共通・プール競技総則)の違反に加えて、次のような場合は失格となる。

- ①上記の競技ルールに違反した場合。
- ②第1、第2競技者が、それぞれ壁にタッチする前に第2、第3競技者が、スタートした場合。
- ③競技中にコースロープを握ったり、引っ張った場合。
- ④第3競技者(溺者役)が折返しの壁にタッチする前に第4競技者が肩掛けストラップを受けとった場合。
- ⑤第3競技者(溺者役)がレスキューチューブを両手で掴む前に5mラインを越えた場合。
- ⑥第3競技者(溺者役)が、キックすること以外に引っぱられるのに協力した場合。
- ⑦第3競技者(溺者役)が5mラインを越えた後、レスキューチューブを両手で掴まなかったり、または離れた場合。
- ⑧第4競技者(第1競技者が担当)が、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合。
- ⑨第1競技者と第4競技者が同一競技者でなかった場合。

以上